

# 2015年度 事業計画書



学校法人桃山学院  
Momoyama Gakuin



### —地域に根ざし、世界にはばたく—

学校法人桃山学院理事長 水谷 和生

桃山学院は1884(明治17)年、英国聖公会宣教協会(CMS)が大坂の川口外国人居留地(大阪市西区)に三一小学校(男子英学校)を創設したことに端を発します。以後、高等英学校や中学校の開設、キャンパスの変更など幾多の変遷を経て、現在、昭和町キャンパスに中学校と高等学校を、和泉キャンパスに大学を設置するに至りました。2009年度には「学院創立125周年・大学開学50周年」を迎え、次の50年、100年に向かって新たな一歩を踏み出しました。

その間、本学院は一貫して建学の主旨であるキリスト教精神に基づいた教育を行い、永い歴史のなかで優秀な卒業生を多数輩出し社会から高い評価を得てきたことは、本学院の誇りであり、その方向性が正しかったことを顕しています。

しかしながら、継続する少子化や経済状況の影響等で、私学をとりまく環境が年々厳しさを増してきており、本学院もその影響を受けていることには間違いありません。この伝統ある学院の事業を継承し、かつ発展させるべく、2013年度からは本学院第二期中長期ビジョンに基づき堅固な経営基盤の構築を図るとともに、各学校の教育・研究・社会活動の目標達成に向けて新たなスタートを切りました。

2014年度においては、第二期中長期ビジョンに基づく中期経営計画の実行に着手いたしました。大学では、法で定められた7年に一度の外部機関による認証評価を受審し、適合認定を受けました。また、大学長より示された大学改革案に基づく各種の検討が開始されました。

2015年度においては、教育の質保証に加え、学生・生徒の勉学環境と満足度の向上を図るため、和泉キャンパス(大学)および昭和町キャンパス(中学校高等学校)の改修を、長期的な観点から計画的に実施していきます。大学においては新しい教育方法に合致する教育棟の建設概要を検討し、中学校高等学校においては温水プールの設置を行います。その他、教学条件の向上を目指しながら、中期経営計画に基づく収入増および支出減に向けて各種方策に取り組んでいく所存です。

なかでも特に緊急を要するものは大学改革です。すでに大学で検討が開始されている教育の質保証に向けた具体的な取り組みの他、改組転換や新学部・学科の設置等を具体化するとともに、併せて入試対策と学生の就職対策にも鋭意取り組みます。大学改革案の具体化とその実施に向けては、理事会としても財務面を中心として最大限のバックアップを行うつもりです。早急な大学改革とその成否が学院全体の発展にかかっているからです。

他方、2015年度から施行される学校教育法の改正に伴い、理事会としても学院全体のガバナンス強化に向けて、理事会、理事長、大学長、中高校長の権限と責任の明確化を図り、迅速な意思決定が行われ、学院の運営がより円滑に行われるよう規程整備を含めた検討を行います。

本学院としましては、学院内各学校の永続性および発展性を担保しつつ、かつ教育・研究活動の環境整備を行うに適切な財政対応が一層望まれる時期であることを十分に認識し、ここに2015年度の事業計画を策定いたしました。各事業計画については、PDCAサイクルを十分に稼働させることとし、各々の計画の達成度を確認し、達成できなかった場合はその原因と改善策を検討いたします。これにより学院全体の意識改革も図っていきたくと考えています。

本学院のさらなる発展と使命達成のため、学院が一体となって鋭意努力してまいりますので、皆様方の一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

## CONTENTS

理事長メッセージ	1	桃山学院大学事業計画	4
第二期中長期ビジョン	2	桃山学院中学校高等学校事業計画	7
桃山学院本部事業計画	3		

## 第二期中長期ビジョン

桃山学院は、2013年度を起点とする第二期中長期ビジョンを2012年12月に策定いたしました。

大学・高校・中学を取り巻く環境が大きく変化してきたことから、2005年に策定された第一期中長期ビジョンを2カ年前倒しで終了させ、その成果と課題を踏まえつつ、現状に対応した目標と施策を提示するものが第二期中長期ビジョンです。

同ビジョンでは、学院の教育理念および学院の諸部門における建学の精神、ミッションステートメントに基づき、2013年度から2022年度の10年間における学院の経営目標ならびに学院の諸部門における教育・研究・社会活動の目標と、その目標達成に必要な諸施策を提示します。これに基づいて各年度における事業計画で具体的な行動スケジュールを立て、PDCAサイクルを回すことにより、目標達成を確実にし、ひいては学院全体の発展を目指します。

この将来ビジョンの具体的な計画とその進捗状況につきましては毎年度公表しながら、学院の構成員一同、心をひとつにして取り組んでまいります。

(参考：桃山学院第二期中長期ビジョン <http://www.andrew.ac.jp/gakuin/approach/vision.html> )



## 桃山学院本部事業計画

### ■ 2015 年度学院本部重点項目

- ・ 教育改革を支える経営基盤の構築
- ・ 経営ガバナンスの確立

### ■ 2015 年度の主な事業について

#### <財務基盤の確立>

教学条件の維持・向上のための資金の適正配分を行うため、事業の抜本的な見直しの検討を行い、可能なものから順次実施します。

#### ① 外部資金の受入の強化

文部科学省の私学助成や科学研究費助成への積極的な申請や大学教育改革の支援制度の新規採択を目指す等、補助金の増額に努めます。また、募金獲得のための体制を整備し、募集活動を推進します。

#### ② 中長期保全改修計画推進のための資金確保と資産価額の見直し

学校法人の永続性の観点から、計画的な将来の施設や設備機器の更新等中長期保全改修計画の資金確保のため、引当資産の留保に努めます。また、当該保全改修計画を円滑に履行するため、前年度に見直し整備した関連規程等に基づき、資産価額の見直しを行います。

#### ③ 法人出資会社設立

学生サービスの向上と業務効率化を実現するため、施設総合管理等の事業を行う法人出資会社の設立を検討します。

#### ④ 賃金体系および定年制の見直し

中期経営計画に基づいて、賃金体系と定年制の一体的な見直しを検討し、2017 年度より新制度が開始できるよう準備を進めます。また、各種手当等の見直しを行い、経費削減を図ります。

#### <経営ガバナンスの確立>

#### ① ガバナンス体制の構築

学校教育法等の改正の趣旨や他私立大学の動向を注視しながら、教学及び経営の観点から責任と権限を明確にしたガバナンス体制の構築に向けて、理事会や常務理事会の運営方法および構成等について検討します。

#### ② 組織の強化

事務組織においては、2013 年度から導入した人事評価制度における目標管理制度の運用を定着させるとともに、2014 年度から管理職に導入した職務遂行力評価制度を一般職にも導入します。また、2013 年度より 3 年計画で整備を図っている事務職員研修制度について、今年度は完成年度を迎えるにあたり、制度運用と改善を進めるとともに、長期派遣研修制度の見直しや人材育成支援システムの導入を行います。

教員組織においては、新任教員への研修を導入します。また、教育力向上と経費削減を目的に、大学任期制教員の採用を含む多様な雇用制度について検討します。

教職員全体としては、現在一律の服務規程から職種に対応した就業規則への見直しを行います。

#### <施設整備の推進>

2015 年度は中長期保全改修関連工事に 6.9 億円、教学改革支援関連工事に 3.3 億円を計上します。

#### ① 和泉キャンパス（大学・学院本部）

中長期保全改修計画に基づく修繕工事を行うとともに、学習環境の質的向上を図るために新棟建設準備を進めます。加えて、2016 年度介護福祉士資格課程（社会福祉学科）開始に向け施設整備を行います。

#### ② 昭和町キャンパス（中学校高等学校）

将来にわたって安全安心なキャンパスを整備するため中長期保全改修計画をとりまとめるとともに、屋外プールの屋内化工事を行い、正課・正課外教育の充実を図ります。



### 事業計画の策定にあたって

大学長 前田 徹生

本学は「地域で、世界で、人を支える」という教育ビジョンの下、地域社会の一員としてまた世界の市民として社会人力・人間力をもった人材を育成する使命を担っています。底力のある社会人力・人間力を育てるために、「世界が変わる体験がある」を標榜し、実践教育・体験教育を軸に学生が「主体的に学習に取り組む（心の底から「やりたい」）態度」を養うために「体験プログラム」「アクティブ・ラーニング」「キャリアプログラム」等の導入を目指しています。「知識基盤社会」と言われる高い知力、総合的な人間力を要求される社会では、単に知識や技能ばかりでなく、思考力・判断力・表現力等の能力、さらに主体性・創造性等の全人的な総合力が求められます。これらの能力を高めるための実践的教育の場としては「地域社会」があります。地域での特色ある教育活動を進化・発展させ、自治体等との連携を更に強化し、大学のもつポテンシャルをもって積極的に地域の課題解決に取り組み、地域と共に発展することで、南大阪地域における「知の拠点」として本学の地位を確立させ、教育ビジョンの実現を目指します。

2015年度は、2013年11月の「大学改革案—新たな方向を目指して」に加えて、新たな改革案を指針として取り上げ、課題の解決を図ります。

1. 大学ガバナンスの整備
2. 教学改革における教育の質保証—入試対策、在学生対策、就職対策の三位一体改革の推進
3. 入試広報戦略の再構築
4. 地域連携の推進

特に大学改革のキーワードとされる「教育の質保証」の実現するための教学改革においては、2016年度の新カリキュラムの運用に向けた準備を行います。また、学部の改組・転換を含む改革についても方向性を示し早期の実現を図ります。改革の実現にあたっては、「学生」に向き合いながら教職員が一丸となり改革を加速化することとします。

加えて、2014年度に大学基準協会の認証評価を受審した結果、適合認定を受けましたが、各点検・評価項目において記載した「将来に向けた発展方策」について、具体案を策定・実行することにより、内部質保証システムの構築を図ることとします。

#### ■ 第二期中長期ビジョン・中期経営計画に基づく2015年度大学重点項目

- ・ 新学部・学科の設置、既存学部・学科の改組にかかる構想案の策定
- ・ 共通教育ならびに既存学部・学科の教育改革
- ・ 教学マネジメント体制の確立
- ・ グローバル化の推進および国際・グローバル性に重点を置いた学内外への発信強化

#### ■ 2015年度の主な事業について

○ 大学全体の取り組み

＜大学のガバナンス確立＞

学校教育法等の改正の趣旨を踏まえ、学長の権限の明確化をはじめとする大学のガバナンスの確立を図ります。

＜新学部・学科の設置構想＞

既存学部・学科の改組ならびに新学部の設置について引き続き検討を行うとともに、必要な準備を進めます。また、先端教育棟（仮称）の建設に向けた準備を行います。

＜教学改革の推進＞

初年次において大学での学びに必要な「スキル」を修得できるよう共通教育の見直しを行います。また、2016年度の新カリキュラム稼働に向け、カリキュラムツリーおよび科目ナンバリング制度を整備します。

加えて、教学マネジメント体制の確立のため、共通教育の運用組織、学習支援センターを包含した機構の設置に向けた準備を行います。

#### <学習支援体制の強化>

学習支援センター、eラーニング、SA・TA制度等の活用により学習支援体制の強化を行うとともに、教育の質の保証の観点からIR機能の充実を図ります。また、学習支援図書館としての機能を強化するため、図書館における学習空間の整備を促進し、図書館における情報リテラシー教育を促進します。

#### <「魅力ある和泉キャンパス創り」の推進>

「魅力ある和泉キャンパス創り」の一環として1億円を計上し、教室等のアクティブ・ラーニング対応など学習空間の充実とともに、快適な学生生活のための環境整備を図ります。

#### <留学生の派遣・受入の促進>

国際体験を通じた異文化理解・外国語の習得・コミュニケーション能力の向上等、グローバル社会において学生が必要とされる能力を身に付けられるよう留学生の派遣支援を行います。同時に、国際交流方針に基づき多様な国・地域からの留学生を受け入れます。

#### <就職率の向上と安定化>

就職を希望する学生の就職率向上と経済状況に左右されることなく安定した就職実績を目指します。また、将来の進路に迷う学生を支援するため、キャリア教育の充実を図ります。

#### <奨学金の充実>

本学では、これまでも成績優秀者のみならず、地方出身者、資格取得、留学、課外活動などあらゆる面で大学独自奨学金制度の充実化を図ってきました。学生の学習インセンティブを一層充実させ、経済的な不安を抱えることなく勉学に励むことができる環境を構築するため、更に効率的な奨学金の運用を検討します。

#### <社会貢献・地域連携>

地域における「知の拠点」として、和泉市をはじめとして堺、泉州、河内地域を中心に地元自治体や産業界との連携を強化し、大学の存在感を高め、地域の知的基盤としての本学の地位を確立します。具体的には、地域を志向する大学であることを社会に明言し、文部科学省の戦略的競争資金「地（知）の拠点大学による地方創生事業～地（知）の拠点COCプラス」に申請します。また、研究所に地域連携の機能を付加するか、地域連携を軸に研究所を再構成することを検討します。

社会貢献プログラムとしては、2014年度より社会人対象に導入した履修証明プログラムを充実させるとともに、MOMOYAMA エクステンション・カレッジを近隣自治体と協力しながら多彩で魅力のある講座を実施します。加えて、「社会人聴講生制度」、「司書・司書補講習」などの社会人を対象としたプログラムから、「MOMOたん英語 KIDS クラブ」「ふれあいニュースポーツ教室」などの地域の子どもたちを対象としたプログラムまで多様な地域貢献プログラムを実施します。

#### ○ 各学部の取り組み

##### <経済学部>

世界で活躍できる人材を育成するために、次のような事業を展開します。

- ① 国際教育とキャリア教育を兼ねた取り組みとして、引き続き中国ビジネスキャリアコース（CBCC）の円滑で充実した運営をはかるとともに、マレーシアでの留学研修を中心とする、アジア・ビジネスキャリアプログラム（ABCP）を継続・発展させます。
- ② 学生のモチベーションアップを目的とした取り組みとして、入学前プログラムに加えて、3年次生を対象にした合宿プログラムを実施する他、学部主催講演会を行います。
- ③ 昨年度立ち上げた情報系専門家（IT パスポートや基本情報技術者等）を養成するプログラムを一層充実していくとともに、金融系専門家（ファイナンシャルプランナー等）を養成するプログラムを立ち上げます。
- ④ 学生の学修・生活状況の把握と教員間での情報共有についての取り組みを、「E-folio」として引き続き実施します。
- ⑤ 経済学部の教育・研究の広報を多様なレベルで充実させます。

#### <社会学部>

- ① 社会学部に入学してよかった、と初年次生が思える学部となるべく、ガイダンス・基礎演習・カリキュラム等の全面において、対応改善を実施・検証し、除退率の改善を目指します。
- ② 社会学部で具体的にこれをしてきた、と卒業時に言える学生を増やすべく、実践的授業、資格課程、海外研修をはじめとする「世界が変わる体験」を、より多くの授業・演習等で提供できるよう検討し実践します。
- ③ 上記の目標を達成するために、介護福祉士資格課程（社会福祉学科）開始と合わせて、両学科とも 2016 年度カリキュラムの大胆な改革を行います。
- ④ 社会学部の特徴・取り組みが受験生・新入生・保護者・社会に容易に理解してもらえるように、学部広報を多面的に展開します。

#### <経営学部>

- ① 2009 年の経営学部中期計画（教育）の基本方針に基づき、「実践的な内容に重点をおいた教育」を引き続き行います。また、全ての授業においてアクティブ・ラーニングを実施します。
- ② 指定校入試制度入学者の除退予防策として、1 年次生の「大学生活入門セミナー」において指定校用クラスを設置します。
- ③ キャリア教育の一環として、簿記、TOEIC、BATIC などの資格サポートに加えて、本学 OB 税理士による講義・交流会を引き続き実施します。
- ④ 英語学習のモチベーションアップのために、オランダにおいてヨーロッパの学生たちとグローバルビジネスを体験学習するプログラムを実施します。
- ⑤ 泉大津商工会議所との学習会（経営交流会）を引き続き実施します。

#### <国際教養学部>

- ① 4 年間の演習と担任制の導入  
2015 年度より、4 年間を通じた演習が行なわれることになり、各学年の演習担当者や 4 コースの各議長が「担任」としてきめ細やかな教育を施し、除退率の改善を図ります。
- ② 初年次教育でのキャリア意識の形成  
1 年次の「大学入門セミナー」で学部教育と関連性が高い各種資格を紹介し資格取得を奨励することで、キャリア意識を形成します。
- ③ 海外留学制度の推奨  
英語特待生留学や認定留学など学部の留学制度も推奨して、海外派遣を強化します。
- ④ 「英語キャリア・コミュニケーションプログラム」の開始  
全コース対象に実践的な英語が学べるように、2015 年度より新たな副専攻を設け、学生の英語力涵養に努めます。
- ⑤ 初修外国語教育の充実  
初修外国語の学習目標を設定し、検定試験を奨励するなどの取り組みを実施します。

#### <法学部>

- ① 認証評価を受け、そこで行った自己点検評価体制の拡充を図ります。まず、法学部の「3 つの方針」（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ・ポリシー）のうち、アドミッション、カリキュラム・ポリシーの改訂を検討します。その過程で出てくるカリキュラムの再検討は全学の改訂との連動の中で行います。
- ② 学部の教育体制としては、初年次教育の強化・充実を継続して実施します。また、キャリア教育の充実を図ることで、学生の進路選択を支援する体制を整えます。さらに、法分野のアクティブ・ラーニングを工夫し、学生自身による積極的な学びに結びつけます。
- ③ 法学部の入試広報方針を確認し、本法学部の特色として打ち出していきます。



### 事業計画にあたって

中学校高等学校校長 田中 栄司

桃山学院中学校高等学校では、キリスト教精神を教育の大きな柱として、生徒一人ひとりの人格を尊重し、健やかな心身の成長と豊かな学力の形成を目指すことで社会のために責任ある一員となる人物を育てることを教育の基本方針としています。生徒を信頼し、自由を尊重する民主的な校風のもと、のびのびと学生生活を送ってもらうことで、自らの責任を自覚し、自主的な規律を持ち、それを守っていく良識ある若者を育てていきます。

本校では、このような教育目標を実現するために、2007年度よりの高校改革、2008年度よりの中学創設、2011年度の標準コースを文理コースに変えての男女共学化、さらに2014年度入試での国際コース入試制度の変革など、改革の流れを止めることなく、将来の発展にむけての着実な歩みを続けてまいりました。今後もミッションステートメントに示された本校の教育目標を基盤に、更なる発展に向けた努力を継続いたします。それと同時に、今いる生徒達一人ひとりを大切に、その可能性を最大限に伸ばしていくことこそが、桃山学院中学校高等学校の将来の更なる発展に繋がるものと確信しております。これらの視点に立脚して、「大学合格実績の向上」および「いのちを大切に教育」を2015年度の重点目標とし、事業計画を作成いたしました。

#### ■ 2015年度中学校高等学校重点項目

- ・ 大学合格実績の向上
- ・ いのちを大切に教育

#### ■ 2015年度の主な事業について

##### <大学合格実績の向上>【高校】

全国レベルの進学校への進化を視野に、2016年度大学入試において国公立合格者の増加を目指し、各教科・高3学年団・進路指導部を中心とした綿密な進路指導を行います。

##### <「いのちの教育」プログラムの充実>【中高】

本校の特色ある教育の一つとして、キリスト教精神に則り隣人を愛する心、命を大切にできる人間の育成を目指して、心肺蘇生法やAED使用法など人命を救える力を身につけるとともに、病院での新生児見学や助産師による講義などの思春期教育により命の大切さを体験する「いのちの教育」プログラムを実施しています。2015年度は、生徒と保護者を対象とした「いのちの講演会」、保護者を対象とした食育講演会の実施などプログラムの一層の充実を図ります。

##### <国際教育の推進>【高校】

より多くの生徒に海外研修や留学を経験させ、国際教育の増進を図ります。EP(Exchange Program)提携姉妹校を従来のアメリカに加えスコットランドにも2016年度から展開するために調査を行います。また、国際コース1年生を対象とした家庭学習におけるスカイプレッソンを継続実施することにより英語力の向上を図ります。更に、同コース1年生を対象とした「和学」を導入します。

##### <教員の資質向上>【中高】

教員の指導力の向上のため、授業アンケートのデータ分析をより精密に行い、教科主任・学年主任と共有することにより、教員の指導力の更なる向上に努めます。また、支援が必要な生徒への対応の充実として、ソーシャルスキルトレーニング研修などを実施します。



<施設整備> 【中高】

正課・正課外教育の充実を図るため、2.3 億円を計上してプール棟屋内温水化工事を行います。これまでの屋外プールと異なり、年間を通じてプールの利用が可能となります。また、将来にわたって安全安心なキャンパスを整備するため昭和町キャンパス中長期保全改修計画をとりまとめます。

<アスリート指定クラブの全国大会入賞> 【高校】

アスリート指定クラブの5つのクラブ（ハンドボール部、男子バレーボール部、男子バスケットボール部、サッカー部、水泳部）の3つ以上のクラブによる全国大会出場を目指します。

<社会活動の拡大> 【中高】

東日本大震災における援助活動を継続して行うと共に、「School By School (SBS) Project」（フィリピンの学校建設とバングラディッシュの貯水池掘削）を中心とした取り組みを積極的に推進します。また、2014年度より開始した地域住民との連携による炊き出しを継続実施するとともに、近隣商店街における中学生徒の就業体験の可能性について検討します。

<危機管理の徹底> 【中高】

大規模災害等への備えとして「地震火災訓練」の実施、大阪府による「大阪 880 万人訓練」への参加、特定の場面を想定した不審者侵入訓練を行い、生徒の安全確保に努めます。